大阪インターナショナルチャーチ　　ダニエル・エルリック牧師　　2012 年 4 月 1 日
シリーズ: 使徒言行録 #16　　聖書個所: 使徒言行録 5:12-16　　中心聖句: 使徒言行録 4:30
タイトル: 教会における奇跡　　特別行事: 聖餐式、ホーバード夫妻による証

I. 導入(画像 : オリオン大星雲。ハーシェル宇宙望遠鏡の遠赤外線画像とスピッツァー宇宙望遠鏡の中間赤外線画像を合成したもの。)

おはようございます。聖書の書き出しに、この聖句があります。（**創世記 1:1**）**「初めに、神は天地を創造された。」**聖書の神は、すべての創造主であられます。このような超自然的な創造の御業を始めとし、聖書の神が奇跡の神であることは明らかです。そして、人知を超えた力と英知の持ち主であられることもわかります。神は天と地を創造されました。神は宇宙とその中に存在するすべてのものを創られたお方ですから、そのすべてをご存知です。

詩篇 147:4-5 にはこうあります。**「147:4 主は星に数を定め／それぞれに呼び名をお与えになる。147:5 わたしたちの主は大いなる方、御力は強く／英知の御業は数知れない。」**（写真：いて座の球状星団メシエ 9、ハッブル宇宙望遠鏡）

多くの人は奇跡について懐疑的です。しかし、私たちの住む世界を考えてみると、現に、時空、物体、エネルギーが存在します。また、宇宙や生命の神秘も否めません。無神論者は、これらは意味のない偶然がいくつも重なった結果だと結論付けます。しかし、聖書は、全知全能の神がおられ、このお方がすべての創り主であられると述べます。そして、人間を神と愛で結ばれた関係に迎え入れるという目的のためにすべてがなされたと語ります。

どちらが受け入れやすいでしょう。すべてが偶然の産物だと考えることでしょうか。それとも、神が歴史の著者だと信じることでしょうか。私たち人間は、創られることなく存在するものはないし、目的や設計なく創られるものはないということを、経験から知っています。実際、パソコンやハイテク機器の設計には膨大な時間と費用がかかっていますが、それでも思うとおりに動いてくれないものです。それなのに、すべてが偶然の産物だと信じろと無神論者は言うのです。人間の心や体の神秘も、人間が存在するのに必要なものを備えた宇宙全体も何もかもです。

率直に言いますが、私はクリスチャンになる以前から、偶然というものにそれほどの可能性があるとは信じていませんでした。宇宙が思いがけず出来上がったり、生物が適当に存在するようになったりするとは到底思えません。この世が造られるためにどんな段階が踏まれたかはさておき、宇宙と生命体が存在するようになるには、そこに英知と力に満ちた手、つまり神の御手があったに違いないと常に信じていました。

宇宙と生命の存在は、神がおられることを示しています。そして、一旦それを受け入れれば、奇跡の可能性を信じるのもそう難しいことではありません。すべてを創造する力と英知を備えた神なら、ご自分が創造された世界に手を伸ばし、ご自分が定められた自然の法則を思い立ったときに一旦停止させる力をお持ちのはずです。また、神と愛で結ばれた関係に迎え入れるために人類を創

られた神なら、時と場合によって奇跡をとおしてご自身をあらわそうとなさっても不思議はありません。

今日の聖書個所で、初代教会の時代には神が多くの奇跡を通してご自身をあらわしておられたことがわかります。これらのできごとは、史実として記録されており、歴史研究家にもよく知られた時代と場所で起こりました。この個所には、弟子たちがソロモンの回廊に集まっていたとあります。その回廊はもうありませんが、エルサレムにある神殿の丘の写真上、印のついている部分が実際にあった場所です。これは、ソロモンの廊とも呼ばれます。

こちらの図は、新約時代の神殿の丘の様子を表しています。当時、巨大な土台の上に神殿が建っており、神殿を行きめぐる屋根つきの回廊がありました。回廊には、屋根を支える柱がたくさんありました。この図は、先ほどの写真と角度が違いますが、ソロモンの回廊と書かれた場所があるのが見えると思います。これは、巨大な建造物でしたから、図では柱がずいぶん小さく見えますが、実際には高くそびえるような柱でした。

今日の聖書個所の場面を少し想像しやすくするために、屋根つきの回廊の写真を持ってきました。これは、当時神殿の丘にあった回廊と似た構造だといわれていますので、ソロモンの回廊がどのようなものだったかイメージしていただけるかと思います。ご覧のとおり、とても広い空間ですから、何千人という人が集まって、ペトロを始めとする使徒たちの教えを聞くことができたでしょう。音響もおそらく良好で、音響システム機器などがなくてもよく聞こえたと思われます。

前置きはこの辺にし、使徒言行録の学びに入りましょう。まず、使徒 5:12-16 の聖書個所を読みます。これは短いですがたいへん説得力のある個所です。

II. 聖書朗読　使徒言行録 5:12-16 (新共同訳)

5:12 使徒たちの手によって、多くのしるしと不思議な業とが民衆の間で行われた。一同は心を一つにしてソロモンの回廊に集まっていたが、 5:13 ほかの者はだれ一人、あえて仲間に加わろうとはしなかった。しかし、民衆は彼らを称賛していた。 5:14 そして、多くの男女が主を信じ、その数はますます増えていった。 5:15 人々は病人を大通りに運び出し、担架や床に寝かせた。ペトロが通りかかるとき、せめてその影だけでも病人のだれかにかかるようにした。 5:16 また、エルサレム付近の町からも、群衆が病人や汚れた霊に悩まされている人々を連れて集まって来たが、一人残らずいやしてもらった。

III. 教え

16 節には、エルサレム付近の町からも、群衆が病人や汚れた霊に悩まされている人々を連れて集まって来たが、一人残らずいやしてもらったとあります。初代教会の時代、信徒たちにとっ

て癒しの奇跡は日常のできごとでした。癒しの奇跡以外にも、驚くような奇跡がたくさんありました。使徒 5:12 にはこうあります。**「使徒たちの手によって、多くのしるしと不思議な業とが民衆の間で行われた。一同は心を一つにしてソロモンの回廊に集まっていたが、」**ここにある「しるしと不思議な業」には、おそらく種々の奇跡も含まれていたでしょう。使徒たちはこのような奇跡の業をする力をどこで手に入れたのでしょう。それは神からです。主イエスからいただきました。どうやっていただいたのでしょう。祈り求めたのです。もちろん、それは彼ら自身の力ではありません。彼らを通して働かれる神の御力でした。

使徒 4:29-30 で、弟子たちはこのように祈りました。**「4:29 主よ、今こそ彼らの脅しに目を留め、あなたの僕たちが、思い切って大胆に御言葉を語ることができるようにしてください。 4:30 どうか、御手を伸ばし聖なる僕イエスの名によって、病気がいやされ、しるしと不思議な業が行われるようにしてください。」**主はこの祈りに力強く応えてくださいました。そして、使徒たちは驚くような力ある方法で働き始めたので、人々は使徒たちが来るだろうと思われるところに病人たちを連れ出しました。せめてペトロの影でもかかれば病人が奇跡的に癒されるかもしれないと思ったからです。もちろん、ペトロの影に特別な力があったわけではありません。主ご自身の力です。同様に、奇跡が起こった目的は、ペトロを金持ちの権力者にするためではなく、人々がイエス・キリストを信じるようになるためです。

今日の聖書個所は新約聖書の使徒言行録です。けれども、聖書の神はいつの時代も奇跡の神であられます。ダニエルが獅子の穴に投げ込まれた場面を覚えておられますか。これはよく知られた聖書のお話です。しかし、この話の主旨を見落としてしまうことがあります。ダニエルが忠実なしもべだったから主がダニエルを救われたのは事実ですが、そこにはそれ以上に大きな目的がありました。ダニエルを獅子の穴から救うことで、民が神を崇めるためです。もっと言うと、ダレイオス王の証を通して、民が神を崇めるようになるためです。

ダニエルが獅子の穴から奇跡的に救いだされた直後に王が書いた手紙を見てみましょう。**ダニエル書 6:26-28「26 ダレイオス王は、全地に住む諸国、諸族、諸言語の人々に、次のように書き送った。『いっそうの繁栄を願って挨拶を送る。27 わたしは以下のとおりに定める。この王国全域において、すべての民はダニエルの神を恐れかしこまなければならない。この神は生ける神、世々にいましその主権は滅びることなく、その支配は永遠。28 この神は救い主、助け主。天にも地にも、不思議な御業を行いダニエルを獅子の力から救われた。』」**

聖書の神、私たちの主であり救い主であるお方は、いつの時代もしるしと不思議な業の神であられます。神には、目的に応じて、神が崇められるために、あらゆる奇跡の業を行う準備が常にあるのです。神は変わることのないお方です。**ヘブライ 13:6-8** にはこうあります。**「13:6 だから、わたしたちは、はばからずに次のように言うことができます。『主はわたしの助け手。わたしは恐れない。人はわたしに何ができるだろう。』 13:7 あなたがたに神の言葉を語った指導者たちのことを、思い出しなさい。彼らの生涯の終わりをしっかり見て、その信仰を見倣いなさい。 13:8 イエス・キリストは、きのうも今日も、また永遠に変わることのない方です。」**私たちの主イエスは、今日も、旧約聖書の預言者ダニエルの時代も、使徒言行録の使徒たちの時代も変わらず同じお方です。今も変わらず、ご自身のよしとされる場合に、ご自身の栄光のためにしるしと不思議な業を行っておられます。

そのことがみことばからわかります。また、私個人の経験からも、しるしと不思議な業があることを少しはわかります。例えば、私がイエスを主であり救い主として信じた時、アルコール依存が奇跡的に癒されました。そして、聖霊に満たされ、コリント第一 12:10 にある異言の賜物をいただきました。私の信仰が強かったからそのような奇跡が起こったのだと思う人がいるかもしれませんが、私はその反対だと思います。神がこのような奇跡を起こしてくださったのは、私の信仰が弱いことを神がご存じだったからだと思います。神の超自然的な御力を直接感じない限り、神を信頼しつづけていけないほど弱い信仰だったと思います。主は、私を宣教師として送り出したいと思ってくださっていました。でも、このような奇跡を体験しなければ、主が私たち夫婦に日本に行くように召された時、主を信頼する心の準備ができていなかったかもしれません。奇跡は、深い信仰に対するご褒美ではなく、むしろ、弱い信仰を強めるために用いられたのだと思います。

ここで疑問が浮かびます。もし神がいろいろな奇跡を今も起こしておられるのなら、なぜイエスを信じるクリスチャンの多くが奇跡を体験したことがないのでしょう。あるところでは誰の目にも明らかな奇跡が起こる一方、別のところでは気付きもしないような奇跡しか起こらないのはなぜでしょう。本当のところは主のみがご存知です。しかし、私自身聖書を学んできて思うことは、主は臨機応変に一番効果的な方法を取られるのではないかということです。神が崇められ、その状況で人々に神の愛が一番よく伝わる方法です。ある場所では、奇跡がイエスを明らかに証するかもしれませんが、別の場所では文化や土地の事情によって奇跡が誤解と混乱を招くかもしれません。例えば、南アメリカや中国などでは奇跡の話をよく聞きますが、日本で目を見張るような奇跡の話はあまり耳にしません。なぜでしょう。はっきりとはわかりませんが、もしかしたら日本では、奇跡が起きたらクリスチャンがすばらしい人間だという意味に取られて、イエスが主である証にならないのかもしれません。

けれども、奇跡をあまり見ないのは、主に対する私たちの愛が生ぬるいからかもしれません。私たちは自分の心を吟味する必要があります。罪があれば、悔い改めて、信仰を新たにしなければなりません。ただし、悔い改めて、主の栄光のために用いてくださいと祈っても奇跡が起こらない場合もあります。もしそうでもがっかりしないでください。**ヨハネ 20:29** で疑いを持っていたトマスにイエスが言われた言葉を思い出してください。トマスは、イエスの手にある釘跡とわき腹の傷を見て、イエスが主であり神であると信仰を告白しました。そのとき、イエスはこうお答えになりました。**「わたしを見たから信じたのか。見ないのに信じる人は、幸いである。」**

主との歩みの中で奇跡を経験したことがありますか。もしそうなら、主に感謝し、主をたたえましょう。同時に、忠実にイエスと歩んでいるけれども、驚くような奇跡を経験したことがないという人も、主に感謝し、主をたたえましょう。最大の奇跡は、人が心に信仰を持つことです。もしかすると、超自然的な奇跡を見ずにイエスを信じた人に備えられた天の報いは、奇跡を起こす人への報いより大きいかもしれません。

神は、ご自分の計画と目的にしたがって、今も奇跡を起こしておられると私は固く信じています。けれども、ここで皆さんに気をつけていただきたいことがあります。世間には、偽りの奇跡を起こして目立ったことをし、私腹を肥やしたり、名声を得ようとしたりする人がたくさんいます。そういう人は主に仕えるしもべではありません。ですから、奇跡が起こったという主張には気をつけなければなりません。自分自身に注目を集めようとしている様子なら、なおさら用心が必要です。心を守り、知恵と分別が与えられるように祈りましょう。

IV.　結び

人の言うことは鵜呑みにできません。奇跡が起こるか起こらないかに関わらず、常に主だけを信頼するべきです。同時に、主の栄光のために働いてくださいと大胆に祈るようにと聖書は語ります。使徒たちのように、思い切ってイエスの福音を証し、大胆な祈りをしましょう。日々、冒険に出るような気持で信仰の道を前進しましょう。奇跡を起こしてくださいと祈る度胸を持ちましょう。主が私たちの祈りを聞き、愛を持って応えてくださることがわかっているからです。

最後に**ヨハネ第一 5:13-15** を読んで終わりたいと思います。**「5:13 神の子の名を信じているあなたがたに、これらのことを書き送るのは、永遠の命を得ていることを悟らせたいからです。5:14 何事でも神の御心に適うことをわたしたちが願うなら、神は聞き入れてくださる。これが神に対するわたしたちの確信です。 5:15 わたしたちは、願い事は何でも聞き入れてくださるということが分かるなら、神に願ったことは既にかなえられていることも分かります。」**

祈りましょう。

V.　祈り

愛する天の父よ、

慈しみ深い主よ、あなたはすべてのものをお創りになった創造主なる神であられます。被造物すべての主なるお方です。あなたのすばらしい愛と恵みを感謝します。そしてイエス・キリストの十字架をとおして与えてくださった驚くべき救いを感謝します。主よ、あなたが私たちをまず愛してくださったように、私たちもあなたを愛することを教えてください。あなたの聖霊で私たちを満たし、あなたの愛と恵みを大胆に宣べ伝えることができるように助けてください。私たちを聖別し、聖なる民としてください。あなたのすばらしさと栄光を大胆に伝える証人としてください。私たちの間で、あなたが栄光をお受けになりますように。（使徒 4:30）**「どうか、御手を伸ばし聖なる僕イエスの名によって、病気がいやされ、しるしと不思議な業が行われるようにしてください。」**主イエスよ、来てください。聖霊よ、来てあなたの民の心を満たしてください。私たちの人生、家庭、教会、そしてこの地であなたが崇められますように。イエスの尊い御名によって祈ります。アーメン。